

2024（令和6）年度 第1回地球科学科FD委員会議事録

1. 開催日時：2024年11月7日(木) 13：30～14：30

2. 場所：Zoom会議

3. 出席者：学科スタッフ（12名）

4. 議事内容：

令和5年度後期および令和6年度前期授業アンケート結果を踏まえて改善した点，その他共有したい話題について等，事前にとったアンケート（資料1）に基づき次の点について意見交換がなされた．・授業資料のペーパーレス化について，・過度に心配性な学生の対応について，・授業中の撮影行為について．その他，会議の冒頭では，学生の気質の変化に対応するゼミの運用方法等について意見交換が行われた．

▼ゼミの運用方法，学生への対応について

・ゼミ内でトラブルがあった点について．学生がどう感じているか重きを置くべきであると保護者から指摘があった．ゼミで発表させ，コメントしていく形式でやってきた．前に立つことさえ負担だという学生がいた場合は，どうするかなど，ゼミの運用をどうされているのか話をききたい．

・発表で厳しい指摘があるとゼミに来なくなる学生がいるため，柔らかく言うようにしている．メンタルの不調をうったえる学生には，最小限の作業をこなすように配慮しているが，そういう学生は，周りにそれを知られたくないという事が多く，周りに悟られないように配慮するのが難しい．目に見える作業量の違いなどがでてきてしまうため，対応については改善していかなければならないと考えている．

・学生の性質によって対応を変えて注意している．ゼミでは，参加者は，各人の発表に対して感想や質問を記入するシート作成させており，必ず一人ひとこと言わせている．

・学生のガス抜きをする機会があるかないかで，違ってくるのでは．今年は助手にたよっている．ゼミでないときに教員でない人がフォローしているのが学生によって良いのではないと思う．

・人を見ながら指導しているが，捉え方は違う．助手にフォローしてもらっている．これまでのゼミ方式が通用しなくなっていると感じている．褒めて褒めて接しても，はたしてそれが教育と言えるのかというジレンマがある．

・ガス抜きができるかどうかは人間関係が構築されているかどうかによるのではないと思う．

・対処が必要になりそうな学生が空いた場合，情報共有をして，早めに学生の性格などを分析しておくのが重要なのではないか．

▼授業資料のペーパーレス化について

・毎回資料を印刷することがペーパーレス化と逆行するのではないかと考えている．デジタルと紙媒体を配布しているが，授業が終了すると捨ててしまうようである．

・公衆送信の問題もあるので，オンデマンドの回以外はデジタルでは配布していない．以前と異なり，カラー印刷が可能になったので，以前よりは配布資料を活用してもらえるに思える．配布するスライドは厳選し，写真であればwebページを紹介するなど，配布物のページ数を減らす努力をしている．

・デジタルでの配布のみにしたら，紙媒体の希望が多かったので，配布するようになった．公衆送信権にかからないものについては，デジタル配信している．

- ・出席者の人数にあわせて印刷するが、例えば70人登録で50人しか出席がない場合などは、余った時にもったいない。かといって、少なく印刷して足りなくなってもこまる。
- ・オンデマンドと対面を利用して反転授業を行っているので、対面のときに、振り返りのワークシートのみ配布している。講義はオンデマンドで動画のみでおこなっており、動画に関する配布資料はない。
- ・完全ペーパーレスでやっている。どうして紙媒体を要求されるのか。
- ・岩石鉱物の形などの資料について要望が多い。形を確認しながら話を聞いて、，，，などということがあるので、手元に資料が必要になるのだと思う。授業の性質によるのかもしれない。
- ・著作権フリーのものが、それほどあるか。
- ・Wikipediaの図や、内容を利用し、どこが間違っているかを解説などをする。
- ・気象庁のものは、URLを記載すればよいとなっている。ネット接続しないことを条件に、テストのときは配布したPDFファイルは見ても良いことにしている。試験中は画面を確認している。
- ・毎年同じプリントを使用しているため、あまりは次年度に再利用している。

▼学生の対応について

- ・学生の対応について、円滑な対応ができるように、各教員から現状（対応方法の例などを）が報告され、情報が共有された。

▼授業中の撮影行為について

- ・合理的配慮のために授業中の撮影行為を許可するように言われたが、全面的に許可していない。学生の筆記に時間がかかっても待つようにしており、たとえ書き漏らしたものがあっても資料をみれば分かるように授業資料をつくりかえて対応した。配慮すべき学生以外が撮影している場合が多いが、どのように対応しているか聞きたい。
- ・資料はオンラインで配布している。授業中には撮影行為があったことはない。
- ・気にしないことにした。撮影行為を止められないので、あきらめた。
- ・撮影の音が気になる。→・とても気になり、授業が止まってしまうことがある。
- ・撮影行為について、犯罪行為であり場合によっては罰せられるということをガイダンス時に伝える。リテラシーとして教えるべきだと学務委員会で話題となった。
- ・コロナ禍の時に学部から配布された注意書きを利用してアナウンスするのはどうか。
- ・外部で共有してはいけないという注意であって、撮影そのものを禁止するものではない。
- ・コロナ禍で著作権免除になっていたもののものなので、その後法整備がととのったので、授業資料が外部に流出した場合、厳しい罰則があることは説明が必要だと思う。

▼設備に関して困っていること

- ・3204教室はスクリーンがふたつあり、黒板に重なるため板書のスペースが不足している。
- ・3404で同様。スクリーンと板書が併用できない。
- ・黒板の前にスクリーンが下りて来る。ハイフレックス教室が増えると良いと思う。

学部がオンライン授業を推奨するのであれば、ハイフレックス教室の拡充を求めたい。

- ・話題として、授業評価を相互にするという企画が挙げられている。学科の外部評価やJABEEとも関連があると思うので、随時報告していく。また、学科FDで出た要望は何処に報告すべきか聞いてみる。

以上（文責：中尾）